
くれよん～あれから～

林檎の葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

くれよん〜あれから〜

【Nコード】

N6451E

【作者名】

林檎の葉

【あらすじ】

「くれよん」続編。交通事故にあったコナンは果たして助かるのか！？そしてその時蘭は――？

（前書き）

この小説は「くれよん」の続編です。読んでいない方はそちらを先にどうぞ。

集中治療室のランプが消えた。中からお医者さんと彼…新一が出てきて、急いで通り過ぎていく。

わたしは血の気がない新一の顔をなるべく見ないようにしながら、お医者さんに聞いた。

「あの…彼は助かったんですか!？」

自分から聞いたくせに、最悪の一言を聞くのが怖くて、わたしはギョツと目を閉じた。そんなわたしに、これ以上ない嬉しい言葉が降り注いできた。

「心配いりません、もう大丈夫です。かなり危険な状態だったんですが…運が良かったですね。」

その言葉を聞いた瞬間、急に涙腺が緩んで、涙があとからあとからあふれてきた。

ああ、助かったんだ。生きているんだ、彼。よかった…。

そんな言葉しか思い浮かばなくて。ただ嬉しくて、安心して。その場に座り込んだ。

「ん…。」

あ。やっと目が覚めたみたい。

「蘭…。」

新一が、わたしの名前を呼んでくれて。新一が、わたしに笑顔を見せてくれて。ただそれだけで幸せなことなのに、気づくのが遅すぎたわたしは、なんて愚かだったんだろう。

「新一、ごめんね…。ごめん。」

また、涙が出てきた。わたし、いつからこんな泣き虫になったんだろう…。

こんな愚かなわたしで、ごめん。

「え、なんで蘭が謝るんだよ？」

（また、蘭を泣かせて。謝るのは、オレの方なのに。）

「生きててくれて、ありがとう。」

「…おれの方こそ、ありがとな。オレが助かるように、祈っててく

れたんだろ？蘭のおかげだよ、オレが助かったのは。」

「新……。」

「ありがとな、信じてくれて。本当に、……。ありがとう。」

（後書き）

こんにちは、林檎の葉です。

やっぱり助かりましたね、コナンの奴。いや、相変わらず悪運強いというかなんというか…。やっぱり新蘭ファンとしてはあまりにも蘭ちゃんがかawaiiそうで…。いや、書いたのは自分なんですけども。

これで沢山の新蘭ファンの人に納得していただけたと思います。よかったら評価お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6451e/>

くれよん～あれから～

2010年12月29日19時37分発行